

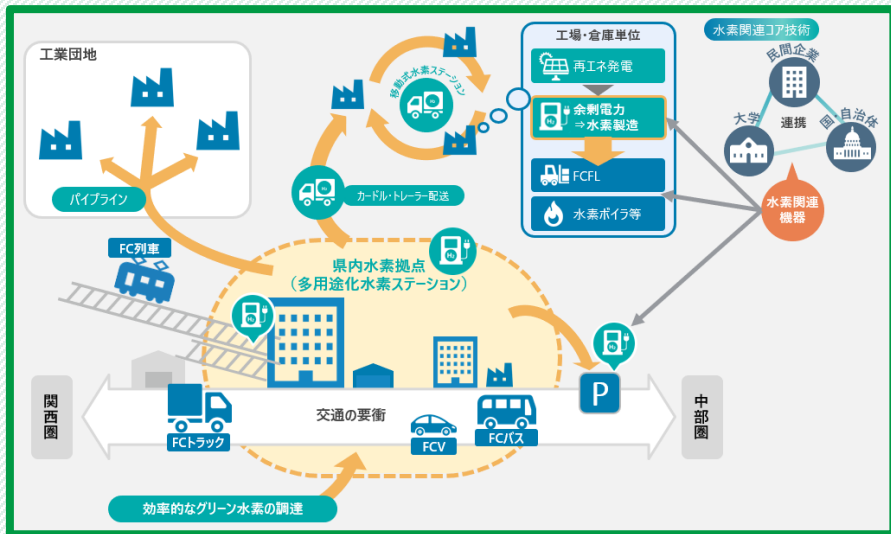
令和5年度水素エネルギー利活用推進事業報告書（概要）

■ 背景・趣旨

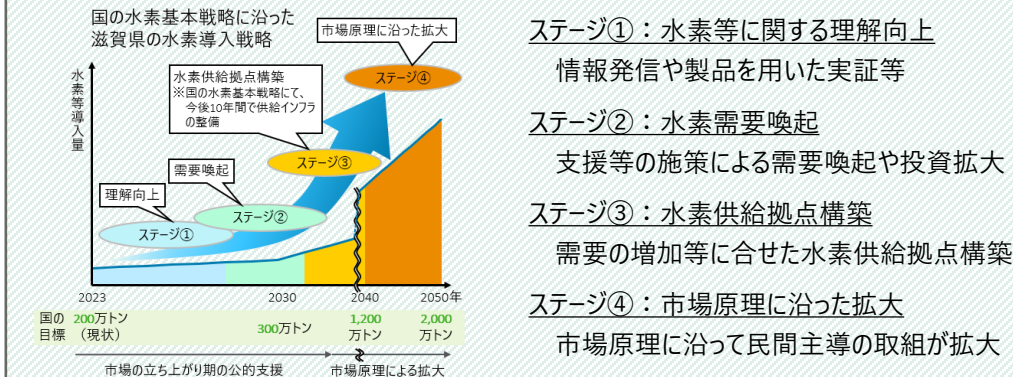
- 滋賀県では令和4年に施行した「滋賀県CO2ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」において水素エネルギーの利用促進を位置付けており、本県のポテンシャルを活かした水素エネルギーの利活用拡大への取り組みを通じて、地域の持続的な発展をも実現する「CO2ネットゼロ社会づくり」を推進している。
- 令和4年度は「しが水素エネルギー研究会」を開催し、「滋賀らしい『水素社会づくり』の推進に向けた方向性」を作成。

■ 滋賀県の水素サプライチェーン将来像

- 令和5年6月に改定された国の水素基本戦略において、今後10年間で産業特性を活かした相当規模の需要集積が見込まれる地域ごとに拠点を整備するとされた。当県においても、地域の需要規模や産業特性に応じて、広範囲での需要創出を図っていく。

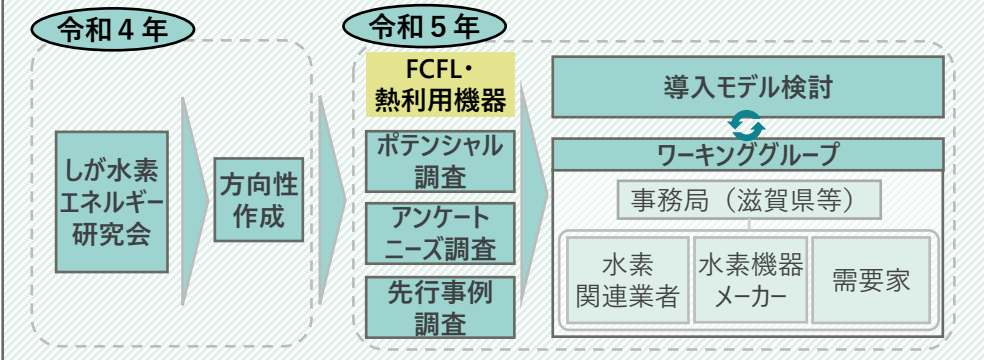


■ 水素サプライチェーン将来像に向けた考え方（4つのステージ）



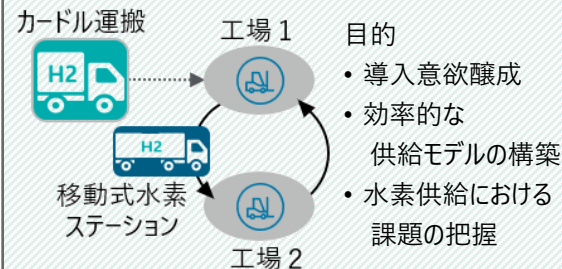
■ 水素エネルギー利活用推進事業での取組

- 令和5年度はワーキンググループを組成し、燃料電池フォークリフト（FCFL）の普及に向けた導入モデルと水素エネルギーの熱利用拡大に向けた取組について検討した。



■ FCFLの普及に向けた導入モデル案

県内に多く点在する小規模工場でも利用可能な移動式水素ステーションを活用した巡回水素供給



■ 水素エネルギーの熱利用拡大に向けた取組

ポテンシャル（熱需要量（TJ））	
ヒートポンプ	・1,269 TJ ※冷熱のみ
ボイラー	・15,438 TJ ・特に繊維木紙、プラゴム
コージェネ	・6,978 TJ ・特に機械製造、廃棄物処理
加熱燃焼	・20,635 TJ ・特に窯業、鉄鋼、機械製造

出所：令和3年度エネルギー消費統計より作成

- 熱利用機器を「ヒートポンプ」、「ボイラー」、「コージェネレーション」、「加熱炉(燃焼方式)」の4つに分類し、ポテンシャルを推計
- 県内で販売実績のある水素ボイラーについて、ボイラーメーカーや需要家を交えたワーキンググループを組成し、導入モデル等について議論

実証に向け想定される課題

- 水素の安定供給
- 設備への投資
- 認知度向上

水素供給体制の構築を含め、議論を継続